シラバス

鍼灸学科　昼間部

３年次

履正社国際医療スポーツ専門学校

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	リハビリテーション医学1		講師名	井前　由紀	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	障害の評価や他業種で行われているリハビリテーションおよび各疾患のリハビリテーションを理解することで患者の病状理解を深め、他業種と連携した治療が行えることを目的とする。				
到達目標	疾患と障害についてよく知ることが適切な治療とフォローアップに繋がって行くため、社会に貢献できる正しいリハビリテーションの知識を身につける。				

回数	講義計画
第1回	リハビリテーションと障害
第2回	リハビリテーション医学と医療
第3回	障害の評価
第4回	障害の評価
第5回	診察から証の把握、治療までの習得
第6回	医学的リハビリテーション
第7回	医学的リハビリテーション
第8回	脳卒中のリハビリテーション
第9回	脳卒中のリハビリテーション
第10回	脳卒中のリハビリテーション
第11回	脊髄損傷のリハビリテーション
第12回	脊髄損傷のリハビリテーション
第13回	脊髄損傷のリハビリテーション
第14回	脊髄損傷のリハビリテーション
第15回	まとめ
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	東洋療法学校協会編：「リハビリテーション医学」：医歯薬出版
参考文献	
評価基準	試験と平常評価から成績評価を行います。 試験の受験には授業時間の2／3以上の出席が必要です。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	リハビリテーション医学2		講師名	井前　由紀	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	障害の評価や他業種で行われているリハビリテーションおよび各疾患のリハビリテーションを理解することで患者の病状理解を深め、他業種と連携した治療が行えることを目的とする。				
到達目標	疾患と障害についてよく知ることが適切な治療とフォローアップに繋がって行くため、社会に貢献できる正しいリハビリテーションの知識を身につける。				

回数	講義計画
第1回	切断のリハビリテーション
第2回	切断のリハビリテーション
第3回	小児のリハビリテーション
第4回	小児のリハビリテーション
第5回	診察から証の把握、治療までの習得
第6回	骨関節疾患のリハビリテーション
第7回	関節リウマチのリハビリテーション
第8回	関節リウマチのリハビリテーション
第9回	末梢神経障害のリハビリテーション
第10回	末梢神経障害のリハビリテーション
第11回	パーキンソン病・呼吸器疾患のリハビリテーション
第12回	パーキンソン病・呼吸器疾患のリハビリテーション
第13回	心疾患のリハビリテーション
第14回	心疾患のリハビリテーション
第15回	まとめ
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	東洋療法学校協会編：「リハビリテーション医学」：医歯薬出版
参考文献	
評価基準	試験と平常評価から成績評価を行います。 試験の受験には授業時間の2／3以上の出席が必要です。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	臨床医学各論3		講師名	古田　髙征	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	各臓器器官系の各分野の具体的疾患について病因・症状・診断法・治療法について学習する。				
到達目標	・各疾患に対し、主な症状が列挙できる。 ・医師や鍼灸師が行う検査、治療について患者に説明できる。				

回数	講義計画
第1回	神経　脳血管障害
第2回	神経　髄膜疾患
第3回	神経　変性疾患
第4回	神経　認知症・筋疾患・脳腫瘍
第5回	診察から証の把握、治療までの習得
第6回	腎・泌尿器　糸球体腎炎・腎不全
第7回	腎・泌尿器　感染症・腎癌
第8回	細菌感染症　（総論、猩紅熱、百日咳、ジフテリア、破傷風）
第9回	細菌感染症　（ブドウ球菌、細菌性食中毒、細菌性赤痢、コレラ、チフス）
第10回	ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘・帯状疱疹）
第11回	性感染症
第12回	内分泌疾患　下垂体疾患
第13回	内分泌疾患　甲状腺疾患、副腎疾患
第14回	代謝栄養　糖代謝異常・脂質代謝異常
第15回	代謝栄養　尿酸代謝異常・その他
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	「臨床医学各論」：東洋療法学校協会編：医歯薬出版
参考文献	
評価基準	・期末試験において成績評価を行う。 ・期末試験・追再試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席を必要とする。
履修上の注意	本科目では、既習している「解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論」の知識を必要とする。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	臨床医学各論4		講師名	中　紀代子	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院開業　はり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	各臓器器官系の各分野の具体的疾患について病因・症状・診断法・治療法について学習する。				
到達目標	・各疾患に対し、主な症状が列挙できる。 ・医師や鍼灸師が行う検査、治療について患者に説明できる。				

回数	講義計画
第1回	口腔疾患、食道疾患
第2回	食道疾患、胃・十二指腸疾患
第3回	腸疾患
第4回	腸疾患、肝臓疾患
第5回	診察から証の把握、治療までの習得
第6回	胆道疾患、膵臓疾患
第7回	感染性呼吸器疾患
第8回	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患
第9回	拘束性呼吸器疾患、その他の呼吸器疾患
第10回	婦人科疾患
第11回	精神科疾患
第12回	心療内科、小児科疾患
第13回	耳鼻科疾患
第14回	眼科疾患
第15回	まとめ
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	「臨床医学各論」：東洋療法学校協会編：医歯薬出版
参考文献	
評価基準	・期末試験において成績評価を行う。 ・期末試験・追再試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席を必要とする。
履修上の注意	本科目では、既習している「解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論」の知識を必要とする。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	関係法規		講師名	椙棟　大輔	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	「あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」を学び、鍼灸師という資格の理解を深める。さらに鍼灸師として社会、特に医療の世界で生きていくにあたり関係してくる、「あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」以外の「その他関係法規」を学ぶ。				
到達目標	免許者の業務が適正に行われるよう法の知識を習得すること				

回数	講義計画
第1回	ガイダンス
第2回	法制定の目的～免許と試験
第3回	業務
第4回	業務
第5回	診察から証の把握、治療までの習得
第6回	学校、養成施設～罰則
第7回	医療制度（医療法、医師法）
第8回	その他の医療従事者に関する法律　薬事法規
第9回	保健一般に関する法律
第10回	予防衛生に関する法律　社会保険各法規
第11回	予防衛生に関する法律　社会保険各法規
第12回	医療保障制度　その他の関係法規
第13回	医療保障制度　その他の関係法規
第14回	「あん摩マツサージ指圧師・はり師きゆう師等に関する法律」まとめ
第15回	「関係法規」まとめ
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	教科書：関係法規（東洋療法学校協会）
参考文献	
評価基準	出席率、小テスト（授業において実施）の成績から評価
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	はりきゅう理論		講師名	西村　展幸	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	鍼灸の基礎知識、臨床応用（刺激量・リスク管理）、治効の基礎（痛み・温度覚・触圧覚の受容と伝導）さらには鍼鎮痛など鍼灸刺激に対して生理学的に学ぶ。				
到達目標	鍼灸施術の治療メカニズムを論理的に考察できる。 また、鍼や灸の基本的知識（術式や製造方法など）を理解できる。				
回数	講義計画				
第1回	生理学復習				
第2回	痛みの受容と伝導				
第3回	痛みの受容と伝導				
第4回	温度感覚、触圧覚の受容と伝導				
第5回	診察から証の把握、治療までの習得				
第6回	鍼鎮痛				
第7回	鍼鎮痛				
第8回	循環系と鍼灸				
第9回	運動系と鍼灸				
第10回	自律神経反射と鍼灸				
第11回	鍼の基礎知識				
第12回	灸の基礎知識				
第13回	リスクマネージメント、衛生管理				
第14回	関連学説				
第15回	灸療法と炎症反応				
第16回	評価（到達度の確認）				
テキスト	「はりきゅう理論」、医道の日本社				
参考文献					
評価基準	小テスト、中間試験ならびに定期試験で評価。 定期試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席が必要。				
履修上の注意					
備考					

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	2　　単位
科目名	東洋医学臨床論3		講師名	副田　恵子	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院開業　はり師、きゅう師として臨床				
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	各種主要症候に対し現代医学的見地に基づいた考え方（注意を要する疾患やその症状・所見、適応となる疾患やその病態、症状・所見、治療方針、処方例）と東洋医学的見地に基づいた考え方（主要症候の分類、鑑別、病態、症状・所見、治療方針、処方例）のそれぞれを学ぶ。				
到達目標	各種主要症候に対し治療の適・不適を判断し、所見に基づいて適切に選穴、治療できる。				

回数	講義計画	
第1回	インポテンツ(西洋医学分野)	16上肢痛(東洋医学分野)
第2回	インポテンツ(西洋医学分野)	17腰下肢痛(西洋医学分野)
第3回	インポテンツ(東洋医学分野)	18腰下肢痛(西洋医学分野)
第4回	インポテンツ(東洋医学分野)	19腰下肢痛(東洋医学分野)
第5回	診察から証の把握、治療までの習得	
第6回	肩こり・頚肩腕痛(西洋医学分野)	21膝痛(西洋医学分野)
第7回	痺証・頚肩腕痛(東洋医学分野)	22膝痛(西洋医学分野)
第8回	痺証・頚肩腕痛(東洋医学分野)	23膝痛(東洋医学分野)
第9回	肩関節痛(西洋医学分野)	24膝痛(西洋医学分野)
第10回	肩関節痛(西洋医学分野)	25運動麻痺(西洋医学分野)
第11回	肩関節痛(東洋医学分野)	26運動麻痺(西洋医学分野)
第12回	肩関節痛(東洋医学分野)	27運動麻痺(東洋医学分野)
第13回	上肢痛(西洋医学分野)	28運動麻痺(西洋医学分野)
第14回	上肢痛(西洋医学分野)	29高血圧・低血圧(西洋医学分野)
第15回	上肢痛(東洋医学分野)	30高血圧・低血圧(西洋医学分野)
第16回	評価（到達度の確認）	

テキスト	東洋医学臨床論（はりきゅう編）：医道の日本社
参考文献	
評価基準	・ 期末試験（筆記・実技など）の成績を元に評価を行う。 ・ 授業は4／5以上の出席が必要。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	2　　単位
科目名	東洋医学臨床論4		講師名	深尾　敦郎	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	各種主要症候に対し現代医学的見地に基づいた考え方（注意を要する疾患やその症状・所見、適応となる疾患やその病態、症状・所見、治療方針、処方例）と東洋医学的見地に基づいた考え方（主要症候の分類、鑑別、病態、症状・所見、治療方針、処方例）のそれぞれを学ぶ。				
到達目標	各種主要症候に対し治療の適・不適を判断し、所見に基づいて適切に選穴、治療できる。				

回数	講義計画	
第1回	食欲不振・肥満(西洋医学分野)	16不眠(東洋医学分野)
第2回	食欲不振・肥満(西洋医学分野)	17疲労と倦怠(西洋医学分野)
第3回	食欲不振・肥満(東洋医学分野)	18疲労と倦怠(西洋医学分野)
第4回	食欲不振・肥満(東洋医学分野)	19疲労と倦怠(東洋医学分野)
第5回	診察から証の把握、治療までの習得	
第6回	発熱(西洋医学分野)	21発疹(西洋医学分野)
第7回	発熱(東洋医学分野)	22発疹(西洋医学分野)
第8回	発熱(東洋医学分野)	23発疹(東洋医学分野)
第9回	のぼせと冷え(西洋医学分野)	24発疹(東洋医学分野)
第10回	のぼせと冷え(西洋医学分野)	25小児の症状(西洋医学分野)
第11回	のぼせと冷え(東洋医学分野)	26小児の症状(西洋医学分野)
第12回	のぼせと冷え(東洋医学分野)	27小児の症状(東洋医学分野)
第13回	不眠(西洋医学分野)	28小児の症状(東洋医学分野)
第14回	不眠(西洋医学分野)	29まとめ・応用
第15回	不眠(東洋医学分野)	30まとめ・応用
第16回	評価（到達度の確認）	
テキスト	東洋医学臨床論（はりきゅう編）：医道の日本社	
参考文献		
評価基準	・ 中間試験、期末試験（筆記・実技）の成績を元に評価を行う。 ・ 授業は4／5以上の出席が必要。	
履修上の注意		
備考		

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	臨床鍼灸学1		講師名	酒井　良和	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院開業　はり師、きゅう師として臨床				
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	学習した東洋医学概論の内容を、実際の臨床にどのように用いてどのように診察するのかを経絡治療の立場から習得する。				
到達目標	経絡治療をする上で必要な診察方法が身についている。				

回数	講義計画
第1回	診療の流れを理解させる
第2回	診療の流れを理解させる
第3回	問診表の使用法を理解させる
第4回	舌診の内容を理解させる
第5回	診察から証の把握、治療までの習得
第6回	脈診の内容を理解させる
第7回	脈診、特に六部定位脈診を習得させる
第8回	六部定位脈診の診方・脈証の考察をチェック
第9回	腹診の内容を理解させ、五臓腹診を習得させる
第10回	背候診を習得させる
第11回	腹診・背候診の診方、腹証・兪穴をチェックする
第12回	問診・舌・脈・腹・背候診の流れを習得させる
第13回	問診・舌・脈・腹・背候診の流れを習得させる
第14回	問診・舌・脈・腹・背候診を再習得させる
第15回	問診・舌・脈・腹・背候診を再習得させる
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	『東洋医学概論』 東洋療法学校協会編　医道の日本社
参考文献	『やさしい中医学入門』 東洋学術出版社
評価基準	1成績評価は授業内評価試験で行う。ただし出席および授業態度を含めて評価する。 2.総授業時間数の4／5以上の出席が必要です。（4／5に満たない場合は、単位が出ません。）
履修上の注意	1.診察を行う時は、神経を集中して行うこと。　2.患者の気持ちになって行うこと。 3.機会があるごとに診察の練習をして能力を高めること。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	臨床鍼灸学2		講師名	酒井　良和	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院開業　はり師、きゅう師として臨床				
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	経絡治療の診療を習得させるとともに、その流れを習得する。また、特効穴・局所治穴の刺鍼・施灸法を習得させることを目的とする。				
到達目標	・切経の診方・証から調整する治療穴を選定、四診から証を決定し、治療できる。 ・臨床上、遭遇する疾患に対する特効穴および効果の高い局所治穴の刺鍼を習得できる。				

回数	講義計画
第1回	切経の習得
第2回	証の決定
第3回	治療穴の選定
第4回	診察から証の把握、治療までの習得
第5回	診察から証の把握、治療までの習得
第6回	診察から証の把握、治療までの習得
第7回	腰痛点、肩痛の刺鍼・施灸の習得
第8回	落枕穴、帯状疱疹の刺鍼の習得
第9回	八邪、顔面神経麻痺の刺鍼の習得
第10回	肥満、歯痛の刺鍼の習得
第11回	診察から治療までの再習得
第12回	診察から治療までの再習得
第13回	診察から治療までの再習得
第14回	膝関節痛、耳鳴りの刺鍼・施灸の習得
第15回	慢性腰痛、鼻閉等の刺鍼・施灸の習得
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	『東洋医学概論』 東洋療法学校協会編 （医道の日本社） 『経絡経穴概論』 東洋療法学校協会編 （医道の日本社）
参考文献	
評価基準	1.成績評価は授業内評価試験で行う。ただし出席および授業態度を含めて評価する。 2.総授業時間数の4／5以上の出席が必要です。（4／5に満たない場合は、単位が出ませ
履修上の注意	1.触診時は手に神経を集中させること。 2.診察から治療にいたるまで、患者の身になって気配りができること。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	2　　単位
科目名	社会はりきゅう学		講師名	椙棟大輔・古田髙征	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	スポーツ領域や社会保障制度での鍼灸（医療制度の中の鍼灸の役割、高齢化社会における鍼灸師の役割）について学び、鍼灸師が社会から何を期待されているか知り、将来の自分のあり方について考える。				
到達目標	授業で紹介する内容や自分で集めた情報から、自分の将来像を持つ。				

回数	講義計画
第1回	現代社会における医療制度の現状
第2回	医療保険制度および介護保険制度の概要
第3回	社会保障制度下におけるあはき治療、医療機関におけるあはき師の役割
第4回	施術所におけるあはき治療、在宅医療
第5回	診察から証の把握、治療までの習得
第6回	高齢社会におけるあはき師の役割
第7回	高齢社会におけるあはき師の役割
第8回	少子化社会におけるあはき師の役割
第9回	女性の健康管理におけるあはき師の役割
第10回	ストレス社会におけるあはき師の役割
第11回	スポーツ傷害に対するあはき師の役割
第12回	スポーツ傷害に対するあはき師の役割
第13回	QOLの向上とあはき師の役割
第14回	施術所開設に必要な法律知識
第15回	経営
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	社会あはき学：東洋療法学校協会編：医道の日本社
参考文献	
評価基準	出席やレポート課題などの平常評価から成績評価を行う。 期末評価を受けるには、授業時間数の2／3以上の出席が必要。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	2　　単位
科目名	はりきゅう実践実習３		講師名	井前由紀・桝谷昌吾〇	
			実務経験	〇	
実務内容	鍼灸接骨院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	・西洋医学的な基本的診察内容を理解し、身体各部位（主要な関節）の評価を行う。 ・医療面接で行う各種診察法の理解を深める。 ・全体的な治療の流れ（問診～治療）を把握し、実施する。				
到達目標	症例を用いて、西洋医学的な医療面接から病態把握、治療穴選穴までをスムーズに行えるようになることを目標とする				

回数	講義計画
第1回	・医療面接 ・症例検討（症例を用いて病態を検討する） 2年次までで学習した検査法の実技も含む ※なお、2年次のはりきゅう実践実習で取り扱った脳神経、整形外科疾患（上下肢・体幹）以外の疾患も取り扱う ・診察シミュレーション ・現代医学的な治療法（過去の文献などから）
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	
参考文献	
評価基準	平常評価と実技試験（授業期間中に実施。詳細は授業にて別途案内）から成績評価を行います。試験の受験には授業時間の4／5以上の出席が必要です。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	はりきゅう実践実習５		講師名	桝谷　昌吾	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸接骨院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	「東洋医学治療システム」を用いた、四診・弁証・治療のプロセスを学ぶ。				
到達目標	東洋医学概論をベースに、臓腑病証、経脈病症、経筋病証の判断と治療ができるようになる。 東洋医学治療システムの理解とそれに基づいた治療ができるようになる。				

回数	講義計画
第1回	授業の概要説明、望診・聞診：講義
第2回	望診（舌診）：実技
第3回	問診：講義
第4回	問診による証立て
第5回	診察から証の把握、治療までの習得
第6回	切診：実技（脈診：祖脈診）
第7回	切診：実技（脈診：六部定位脈診）
第8回	切診：実技（愈募原穴診）
第9回	切診：実技（切経）
第10回	システム概要の説明、システム講義
第11回	システム講義
第12回	システムを使った証立て
第13回	システムを使った証立て
第14回	実技チェック
第15回	実技チェック
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	「東洋医学概論」医道の日本社、配布プリント
参考文献	
評価基準	実技試験および筆記試験にて評価を行う。 授業は4／5以上の出席が必要
履修上の注意	白衣を忘れた場合、授業を受ける心構えが出来ていないとみなされ、授業を受けることが出来ない場合がある。また、ジーンズやハイヒールの装着など服装においても同様である。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	はりきゅう総合実習		講師名	中西　満美子	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院開業　はり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	不妊、生理痛、逆子・産後ケアをはじめとして美容鍼灸など女性のニーズにこたえられるような知識・技術を修得することを目的とする。				
到達目標	女性のニーズにこたえられるような知識・技術をもって治療ができる。				
回数	講義計画				
第1回	ガイダンス・基本処置				
第2回	生理痛・PMSに対する鍼灸				
第3回	未妊・不妊に対する鍼灸				
第4回	更年期障害に対する鍼灸				
第5回	マタニティケア鍼灸				
第6回	逆子、産後ケア鍼灸				
第7回	美容鍼灸①				
第8回	美容鍼灸②				
第9回	美容鍼灸③				
第10回	美容鍼灸④				
第11回	発毛鍼灸				
第12回	奇経治療・耳鍼				
第13回	臨床で困ったときに使える刺法				
第14回	総括・実技試験ガイダンス				
第15回	評価（到達度の確認）				
第16回					
テキスト					
参考文献					
評価基準	レポート・出席点・授業態度を総合して評価する。				
履修上の注意					
備考					

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	2　　単位
科目名	臨床実習3		講師名	井前・西村・日開・古田	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	臨床実習	学期	通年	分野	専門分野
講義目的	付属治療院・付属治療施設において鍼灸臨床実習を行う。				
到達目標	鍼灸師として、患者様との適切なコミュニケーションのもと基本的な評価・治療ができる。				

回数	講義計画
第1回	鍼灸臨床実習：各スポーツの選手を対象として、医療面接から評価・治療まで 指導者監督のもと実践的な実習を行う。 ・サッカー実習 ・野球実習 ・バスケットボール実習 ・テニス・ソフトテニス実習 （日程・グループ分けなど詳細はオリエンテーションにて提示・説明）
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	
参考文献	
評価基準	出席（全出席）、レポート課題
履修上の注意	服装や髪形など臨床にふさわしくない格好の際、実習を中止する。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	総合演習2		講師名	桑原、西村、古田	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	演習	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	鍼灸の様々な分野に対して探求し説明する。（卒業研究）				
到達目標	自身が調査してきた内容を論文・スライドにまとめ、発表会や学会で他人に説明できる。				

回数	講義計画
第1回	卒業研究作成作業
第2回	卒業研究作成作業
第3回	卒業研究作成作業
第4回	卒業研究作成作業
第5回	卒業研究作成作業
第6回	卒業研究作成作業
第7回	卒業研究作成作業
第8回	卒業研究作成作業
第9回	卒業研究作成作業
第10回	卒業研究作成作業
第11回	卒業研究作成作業
第12回	卒業研究作成作業
第13回	卒業研究作成作業
第14回	卒業研究作成作業
第15回	卒業研究作成作業
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	
参考文献	
評価基準	出席率、卒業論文発表（プレゼンテーション）・論文提出
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	総合演習5		講師名	桑原・古田・桝谷	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	演習	学期	通年	分野	専門分野
講義目的	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。				
到達目標					

回数	講義計画
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	文化祭 体育祭 卒業論文発表 学校協会学術大会参加 学外セミナー
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	
参考文献	
評価基準	出席率、レポート
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	医学演習1		講師名	日開　美月	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸整骨院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	演習	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『東洋医学概論・経絡経穴概論』の復習や演習を中心に授業を行う。				
到達目標	卒業試験に向けて、東洋医学的な生体観について整理できる。 基本的な東洋医学的知識を実践的に治療に利用できるレベルに到達している。				

回数	講義計画
第1回	東洋医学の知識確認演習1
第2回	東洋医学の知識確認演習2
第3回	東洋医学的思想
第4回	五行について
第5回	気、精について
第6回	気の病症
第7回	血・津液の病症
第8回	まとめ・中間チェック
第9回	肝について
第10回	心について
第11回	脾について
第12回	肺について
第13回	腎について
第14回	経脈病症について
第15回	総まとめ
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	解剖学、生理学：　東洋療法学校協会編
参考文献	基本的に授業では教科書と過去の国家試験を参考に制作したレジメを配布し授業を行う。
評価基準	定期試験と毎時間実施する確認テストと出席数で評価を行う。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	医学演習2		講師名	清行　康邦	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	演習	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため復習や演習を中心とした授業を行う。				
到達目標	国家試験に合格できる学力レベルに到達するだけではなく。生理学や病理学などで人体の仕組みなどの知識を深めてその知識を使用し、整形外科疾患やリウマチ膠原病疾患のみならず様々な疾患の病態を理解する能力を持つことを目標とする。				

回数	講義計画
第1回	解剖学・生理学の基礎
第2回	組織（上皮組織・結合組織）
第3回	組織（筋組織・神経組織）
第4回	血液・循環
第5回	血液・循環
第6回	動脈系
第7回	静脈系・リンパ系
第8回	呼吸器系
第9回	消化器系
第10回	消化器系
第11回	代謝・体温
第12回	泌尿器系
第13回	泌尿器系
第14回	排泄
第15回	まとめ
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	解剖学、生理学、臨床医学各論、病理学概論：　東洋療法学校協会編
参考文献	基本的に授業では教科書と過去の国家試験を参考に制作したレジメを配布し授業を行う。
評価基準	定期試験と毎時間実施する確認テストと出席数で評価を行う。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	医学演習3		講師名	日開　美月	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸整骨院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	演習	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『東洋医学概論』の復習や演習を中心に授業を行う。				
到達目標	国家試験に合格できる学力レベルに到達するだけではなく、臨床実習の場などにおいて東洋医学的な生体観をもとにした治療を実践できるように知識を深めていくことを目的とする。				

回数	講義計画
第1回	東洋医学の起源と発展
第2回	気血津液
第3回	弁証論治（難経）
第4回	弁証論治（難経）
第5回	弁証論治（八綱）
第6回	弁証論治（八綱）
第7回	弁証論治（気血津液）
第8回	弁証論治（気血津液）
第9回	弁証論治（六経）
第10回	弁証論治（六経）
第11回	各部位の症状と東洋医学的診察・選穴
第12回	各部位の症状と東洋医学的診察・選穴
第13回	各部位の症状と東洋医学的診察・選穴
第14回	各部位の症状と東洋医学的診察・選穴
第15回	まとめ
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	解剖学、経絡経穴概論、東洋医学概論、東洋医学臨床論（はりきゅう編）：東洋療法学校協会編
参考文献	徹底攻略国家試験過去問題集 はり師・きゅう師用：医道の日本
評価基準	授業中に実施する小テスト、出席状況、定期試験から評価を行う。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	医学演習4		講師名	清行　康邦	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	演習	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため復習や演習を中心とした授業を行う。				
到達目標	国家試験に合格できる学力レベルに到達するだけではなく。生理学や病理学などで人体の仕組みなどの知識を深めてその知識を使用し、整形外科疾患やリウマチ膠原病疾患のみならず様々な疾患の病態を理解する能力を持つことを目標とする。				

回数	講義計画
第1回	生殖器
第2回	ホルモン・内分泌
第3回	ホルモン・内分泌
第4回	神経系概要
第5回	神経系・中枢神経
第6回	神経系・中枢神経
第7回	神経系・末梢神経（自律神経）
第8回	伝導路
第9回	脳神経
第10回	脊髄神経（神経叢）
第11回	筋収縮の仕組み
第12回	運動反射
第13回	感覚・特殊感覚
第14回	免疫・生体防御機構
第15回	まとめ
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	解剖学、生理学、臨床医学各論、病理学概論：　東洋療法学校協会編
参考文献	基本的に授業では教科書と過去の国家試験を参考に制作したレジメを配布し授業を行う。
評価基準	定期試験と毎時間実施する確認テストと出席数で評価を行う。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	医学演習5		講師名	井前・西村・日開・古田・桝谷	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	演習	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『臨床医学総論』の復習や演習を中心に授業を行う。				
到達目標					

回数	講義計画
第1回	病理学概論まとめ
第2回	病理学概論まとめ
第3回	臨床医学総論まとめ
第4回	臨床医学総論まとめ
第5回	臨床医学各論まとめ
第6回	臨床医学各論まとめ
第7回	臨床医学各論まとめ
第8回	臨床医学各論まとめ
第9回	リハビリテーション医学まとめ
第10回	リハビリテーション医学まとめ
第11回	東洋医学臨床論まとめ
第12回	東洋医学臨床論まとめ
第13回	東洋医学臨床論まとめ
第14回	はり理論まとめ
第15回	きゅう理論まとめ
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	解剖学、生理学、臨床医学総論・各論：　東洋療法学校協会編、まとめ本
参考文献	基本的に授業では教科書と過去の国家試験を参考に制作したレジメを配布し授業を行う。
評価基準	定期試験と毎時間実施する確認テストと出席数で評価を行う。
履修上の注意	
備考	※授業日程については、後日詳細を提示する。

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	3　　年	単位数	1　　単位
科目名	医学演習6		講師名	西村　展幸	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	演習	学期	通年	分野	専門分野
講義目的	模擬試験などを実施し、定期的に学習進行状況を確認しながら卒業・国家試験に向けて自らに課された弱点を解消することを目的とする。				
到達目標	学習の進捗状況を自ら把握でき、日々の学習にいかすことができる。				

回数	講義計画
第1回	問題演習・解説 ・模擬試験 （・卒業試験）
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	
参考文献	
評価基準	
履修上の注意	
備考	